



# 栃の木からの手紙

2024年 葉月 8月号



(7月19日 畑の様子)

- 4日： 新月 旧7月1日
- 6日： 広島原爆の日
- 7日： 立秋
- 9日： 長崎原爆の日
- 12日： 御巢鷹山慰霊の日  
(日航ジャンボ機墜落)
- 15日： 平和祈念の日
- 20日： 満月 旧7月17日
- 22日： 処暑



7月11日に始まったひまわりの開花。ひまわりの列の左側の200m程離れた道路からひまわりの緑の帯の中に黄色い物がポツリポツリと見えているので気が付く。13日には美幌神社に献納し花手水として手水舎で季節感を漂わせていました。



小麦の集団収穫作業が終了した27日夕方、ひまわりの花びらが散り始める様になったのでひまわりを細断処理しました。例年だと、細断作業中沢山のハチやチョウなどの虫たちが飛び交っていますが今年は少ないでした。

この後、折を見て畑にすき込む作業を行います。

左写真のひまわりの左側は、一般のビート。右側の背の低い緑は、赤ビーツ。その右の背の高い緑は、今年から始めたデントコーンです。7月10日頃までは、トラクタがデントコーンの畑に入って作業していましたが今では無理。



【 7月25日一般のとうや芋坪堀 】  
小麦収穫の合間に芋の出来具合を調査する為にとうや芋の坪堀を行いました。基準となる畝の長さの中にある芋を掘り出してサイズ毎に数量と重さを調べて畑の芋の出来具合を判断します。結果はLM~3Lで全体の60%、S、Mで23%、外品層で17%でした。



左上写真の中央から左が食用芋のとうや、右が澱粉用の芋です。品種によって全体の色合いも異なります。28日、とうや芋の茎葉を刈り払って枯凋剤を散布しました。8月2日には左写真の様に食用芋の部分は残った茎葉も枯れ地面の色が見えています。この収穫作業は、お盆前の10日頃から行う予定です。



## 2024年 デントコーン栽培



### 他の出来事

この2年、雑草畑に子どもキャンプを受中、芋の株元からカナハハーベスタで収穫中大将が横断。この畑で見ました。

7/9 有機農業ネットワーク視察



上写真は、2015年3月号の柘の木からの一部転載。前年の2014年7月9日にオホーツク振興局が中心になる有機農業ネットワークの視察を受入れた写真。

この時、津別町有機酪農の会長の山田さんデントコーンの栽培の話聞いていましたが、あれから10年。山田さんが見ていた有機JASの畑には今デントコーンが生育している。時の流れの必然性なのでしょう。

昨年秋から津別の有機酪農やデントコーンについて調査し有機酪農の現在の会長の石川氏にもお会いして当農場でのデントコーンの栽培について教えていただいた。有機飼料の認証取得については近隣の戸農場さんにお世話になりました。

冬の間、有機飼料の認証取得の為に資料を作り始め、6月11日に有機認証の現地調査を受け、初めてのデントコーンの栽培を行っています。

### 【 栽培記録 】

- 5月5日 李の花が咲いた
- 5月9日～11日 整地（機械洗浄）
- 5月15日 デントコーン播種
- 5月22日 発芽
- 5月27日 周辺草刈り
- 6月2日 手取除草  
カルチ除草1回目
- 6月11日 有機JAS現地調査
- 6月12日 カルチ除草2回目
- 6月20日～7月10日手取除草
- 6月27日～7月2日 半培土
- 7月6日～10日 本培土
- 7月31日～8月3日外周手取除草



カルチ除草



手取り除草



半培土



本培土



### 8月3日のデントコーン

1本の幹に2本の実が成り上部には穂も出てきています。実の成る場所は、下の葉から6,7番目の葉の根元から出てきています。キツネには届かないと聞きましたが、鹿がきています。2mを優に超えるデントコーンの畝の中から見ると空はどんなだろうか？